十月五雲会

十月十七日（土）
午後十二時始

演目の解説

12:00

龍田

シテ 澤田宏司
ワキ 則久英志
ワキツレ 野口能弘
〃 野口琢弘
間 野村拳之介
大鼓 大倉栄太郎
小鼓 曽和伊喜夫
太鼓 林雄一郎
笛 小野寺竜一
後見 武田孝史
大友順
地謡 藤井秋雅
山内崇生
金森秀祥
内藤飛能
木谷哲也

能「龍田」（たつた）

諸国を廻る僧が龍田の明神に参るために龍田川を渡ろうとすると一人の女が止められます。女はそのわけを問うと、龍田川に流れる紅葉の錦を乱してはいけない、と和歌を引いて答え、それは凍つた川でも同じことと重ねて僧をたしなめ、明神に案内します。女は美しく紅葉した社頭の楓を、この神木と説明し、共に宮巡りするこの明神の身よりの光を発し、社殿が尚も待つて入つてしまいまり。僧が明神となつて宮殿から現つれ、女が明神となつて紅葉の散り舞い、神楽を舞ひ、中飛ぶ去つて行きます。

13:30

隠狸

河野佑紀
野村万之丞

〈休憩十五分〉

狂言「隠狸」（かくしだぬき）

ある主人は、太郎冠者が狸を巧みに狩るなどいう噂の審議をただすと、狩りがすでにとったことがないと答えると、狩汁にに客人を招ずるる主人は、狩を市でてあいてくるよう冠者に命じる。冠者は、実は昨夜も狩をとったのだが、内緒で売つてしまおうとかついで出かける。主人はてしまいて待つて冠者は慌てて狩を後ろに隠す。主人は冠者に酒を飲ませ…。

14:10

半蔀

シテ 小倉健太郎
ワキ 安田登
間 野村万之丞
大鼓 柿原光博
小鼓 田邊恭資
笛 栗林祐輔
後見 今井泰行
野月聡
地謡 辰巳大二郎
水上優
宝生和英
高橋憲正
鶴田航己

能「半蔀」（はしとみ）

都北山紫野の雲林院に住む僧が立花供養を営むところに、一人の女が訪れます。女は花供養に白い花を捧げ、僧の問いに答えて夕顔の花の名と、昔光源氏が訪ねた五条辺りの家のかの事を語り、夕顔の精であるとり仄めかまして花の陰に消えます。僧が教えの蔭より五条辺りに出向くと、女が現れ、光源氏が最初に訪れた扇に夕顔棚の惟光に香を焚き出し締めた日、家の花の美を添えて差し舞を舞つて、夜明けの訪れの前に夕顔棚の内に消えて行きます。

15:45

忠信

シテ 上野能寛
ワキ 高井松男
大鼓 柿原孝則
小鼓 清水和音
笛 熊本俊太郎
後見 宝生和英
金井雄資
金森良充
地謡 田崎甫
和久荘太郎
小林晋也
當山淳司
石黒空

〈休憩十五分〉

義経 東川尚史
トモ 〃 藤井秋雅
法師 木谷哲也
立衆 亀井雄二
佐野弘宜
〃 金森隆晋
〃 辰巳和磨
〃 金井賢郎
〃 朝倉大輔

能「忠信」（ただのぶ）

吉野山に潜伏中の義経に仕える伊勢の三郎義盛は、吉野山の衆徒が心変わりし、義経を夜討にすべきと注進してまいります。知らせを察すると、急いで義経に事の決めます。義経は急ぎ山を下りるを残すも、一矢も浴びずに逃げる事のもせ、我々一行は山を下りるが一人悔しいと、義盛に忠信を呼び出る。その後追いつく残つて防ぎ矢を射、主君を送つた忠信が支度をして待つていると命じます。ところに攻めて来ますが、一人奮戦の衆徒が落ち延びて行きます。

終演予定十六時十五分頃

チケット料金

一般　5,000円
学生　2,500円
（当日学生証提示）

ご購入は
オンラインチケット
または
宝生会事務局まで